

# すいしん

発行:住吉・住之江同和人権教育推進協議会・すいしん編集委員会  
住所:大阪市住吉区帝塚山東5-3-21 市民交流センターすみよし北内  
電話:06(6674)3731

～草原の風のしらべ～モンゴル民族音楽コンサート(住吉・住之江同推協人権全体公演会)

## 「豊かで深いしらべと音が心にしみました」

共催:住之江小学校PTA、敷津浦小学校PTA、真住中学校PTA、住之江中学校PTA

2012年度の、4校PTA共催の人権公演会として～草原の風のしらべ～と題されたモンゴル民族コンサートを、2月27日(水)住之江小学校で開催しました。

出演は、モンゴル伝統芸術協会テムジン・アンサンプルのみなさんで、男性ひとりと女性ふたりのメンバーで来られました。映像で、モンゴルの町や草原のようす、伝統楽器の説明も入れながらのコンサートでした。ホーミーというひとりでふたつ高さの音を同時に歌う独特の発声法によるモンゴルの歌がとても印象的でした。



また、馬頭琴(モリン・ホール)、リンベという笛、150本もの弦をバチではじくヨーチンという楽器、馬頭琴を大きくしてチェロに似たドント・ホールという楽器を使った演奏はたいへん美しく、草原の風や走る馬の姿が浮かんでくるような素晴らしさで、思わず聴きほれてしまいました。ユネスコ世界無形文化遺産に登録されている、曲の最初から最後まで一息で吹くリンベの奏法に、会場は魅了されました。演奏が終わったあとの感想に、「豊かで深いしらべと音が心にしみこみました」と感想を寄せてくれた方がいました。

小学校で2年生の国語に、モンゴルを舞台にした少年と白い馬の絆をテーマとした読み物「スーホの白い馬」という国語の教材があります。モンゴルは日本人にとって、遠い地ではあるけれど、郷愁と親しみを感じる場所のようです。近年大相撲で活躍するモンゴル出身の力士がいる、乳幼児の時にお尻に蒙古斑(もうこはん)があるなど、民族的に近いということもあるのでしょうか。言葉の文法的な順番が同じということも、今回知りました。

モンゴルは、私たちにとって牧歌的な地のイメージがありますが、ウランバートルなど都市もあり、私たちが持つイメージは一面的なものであります。お互いを表面的でなく、より深く知り、受け入れあって生きることにより、さまざまな人がさまざまな文化を持って生きるという状況がますます進みます。その違いをお互いが受け入れ合って生きることが、社会を豊かにしていくことにつ

ながります。このような機会を大事にして、それぞれの文化の素敵さを知るとともに、ともに生きるということの意味もあわせて考えてみたいと感じることのできる公演会でした。



リンベの演奏



馬頭琴の演奏体験

## 水平社博物館見学と柏原フィールドワーク (同推協役員研修会)

3月2日(土)、奈良県御所市柏原にて、今年度3回目の役員会・役員研修会をおこないました。「人の世に熱あれ、人間に光あれ」と、にんげんの尊厳と平等を高らかにうたいあげ、1922年3月3日、京都市岡崎公会堂で全国水平社が創立されました。その中心となったのが、西光万吉さんや坂本清一郎さんら、奈良県御所市柏原の青年たちでした。全国水平社創立から90年をむかえるにあたり、今年度の役員会・役員研修会を水平社発祥の地であり、「人権のふるさと」として親しまれている柏原でおこなうことにしました。



水平社創立のメンバー



水平社博物館内の見学

役員研修会では、水平社博物館見学と柏原のフィールドワークをしました。水平社博物館では、水平社結成の背景となる本村と被差別部落の子どもたちを分けるために別々の公立学校が建てられたなどの差別の実態、運動を経済的にささえた膠(にかわ)や桐下駄(きりげた)などの地場産業、部落差別に対して団結して立ち上がっていく様子、国内外の差別や人権侵害と立ちむかう運動との連帯、水平社運動に深く関わった人物の紹介などが展示されていました。なかでも、水平社創立大会の様子を映し

出すファンタビューシアターは、創立大会に参加しているような気分を味わうことができるものでした。

フィールドワークでは、『解放令』から5万日目」記念碑や、全国水平社創立宣言の起草者・西光万吉さんの生家である西光寺、青年たちが集まり部落差別をなくすために話し合いを重ねた燕(つばめ)神社、などをまわりました。当時の青年たちは、燕神社の前の広場を「建議の庭」と呼んでいました。

水平社博物館の見学とフィールドワークを通して、差別に立ちむかい、さまざまな人と協力していった先人たちの取組みを、肌で感じることができた研修会でした。

フィールドワーク終了後、役員会をおこないました。はじめに、2012年度の活動や「すいしん」発行、専門部会の活動などの報告をおこないました。その後、2013年度の活動予定や「すいしん」発行計画について提案しました。質疑では、「各校で人権教育をすすめるにあたって、人材を育成するにはぜひ同推協の専門部会などに参加してほしい。各校で積極的な参加体制をつくってもらいたい。」との意見をいただきました。



燕神社前で説明を受ける様子

## 専門部会で実践交流や学習をすすめてきました！

### 障がい児教育部部会

障がい児教育部部会では、「もう一度、原学級保障を考える」というテーマで、学習会を行ってきました。同推協では、障がいのある子どもが、まわりの子どもとともに、学び生活し、ともに育ち合う教育を進めてきました。しかし、障がいのある子どもの学習をどのように考えるのかということで、教育現場では、さまざまな疑問や意見が出てきている実態があります。

そこで、原学級保障の取り組みが、何をめざして進められてきたのかということ、原学級保障の取り組みをつくってこられた先輩教員からお聴きすることからはじめました。住之江特別支援学校の教員、大阪府立西成高校の自立支援コースのコーディネーター、地域で障がい児者を支える立場の総合福祉センターの職員、住吉中学校の保護者を講師に招き、学習会を続けてきました。学習会では、基本的に、講師の方からのお話をうかがった後で、参加者がグループに分かれて話し合い、全体に返して行くという形をとりました。1月と2月は、参加している学校ごとに、「成果と悩んでいること」を出し合って意見交流をしました。参加者からは、「原学級保障は子どもにとっても、保護者にとっても良いものだと感じました」「各校の実践の様子を知ることができたし、悩んでいることを出し合い話し合えて良かった」という声が寄せられています。障がいのある子どもとまわりの子どもがともに育ち合うために、何を大事にしていくのか、まだまだ深める必要があると感じています。2013年度は、ともに育ち合う障がい児教育をさらに進めるために、学習を深めていきたいと考えています。

### のびのび保育部会



のびのび保育部会では、人権尊重の視点から、子どもたちの心身の発達や、保育所・小学校・中学校の連携を強めることを目的に取り組んできました。9月には、親子クッキングをおこない、「朝に美味しいトースト(卵とチーズを使って簡単にできるもの)」と「カボチャのポタージュ」を作りました。7組17名の親子が参加し、楽しい時間を過ごすことができました。楽しみながらも真剣に料理を作る

子どもたちの姿が印象的でした。10月には、常盤会学園大学教授の佐谷力さんを講師に迎え、「共感性を育てる」をテーマに、子どもとのかかわりについて学びました。その中で、話をゆっくり聴く、考える時間をあげることの大切さ、おとなが子どものことを理解しようとする気持ちが共感性をはぐくむことを教えていただきました。1月には、絵本あれこれ研究家の加藤啓子さんを講師に迎え、「えほんのひろば」の体験学習をおこないました。表紙を見せて絵本を並べ、おとなでも(だからこそ)楽しめる本を入れることで、年齢を問わず絵本を楽しむことや文字だけではなく絵を読む大切さに気づかされました。



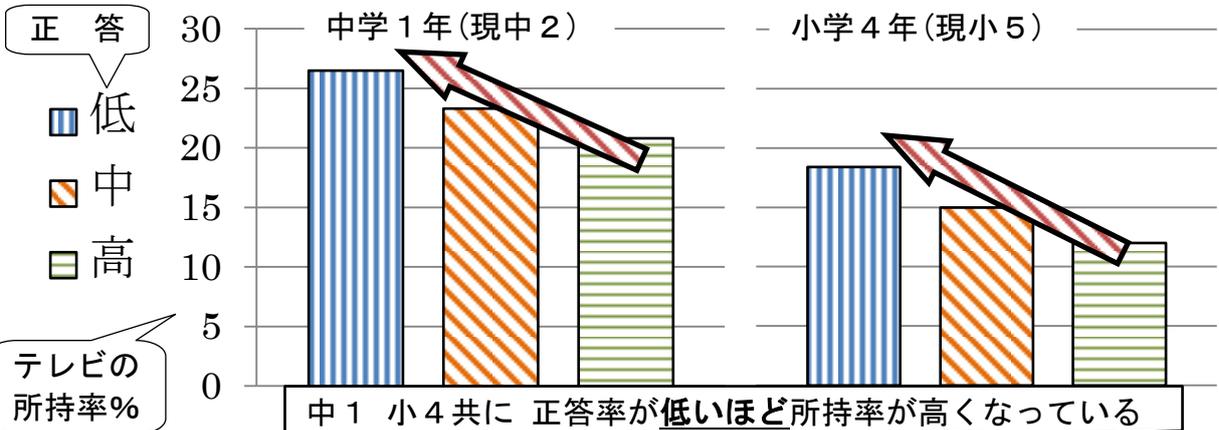
# 「ほめて」いますか？

同推協専門部会 学力・進路保障部会  
「2011年度 学力と生活アンケート」結果より

これまでの学力と生活実態アンケートの分析から、生活リズムが整っている子どもの正答率（テストなどで、正しく答えられた割合）が高くなる傾向があることがわかってきました。また、「テレビを見る時間」「携帯電話の使い方」「宿題をする時間・場所」「遅刻をしないために」「学校の準備をする」について、各家庭で『約束』を決めることが大切であるという事がわかってきました。そして、『約束』を決めるためには、子どもと話し合っ  
て決めていく事が重要であるという事もわかってきました。

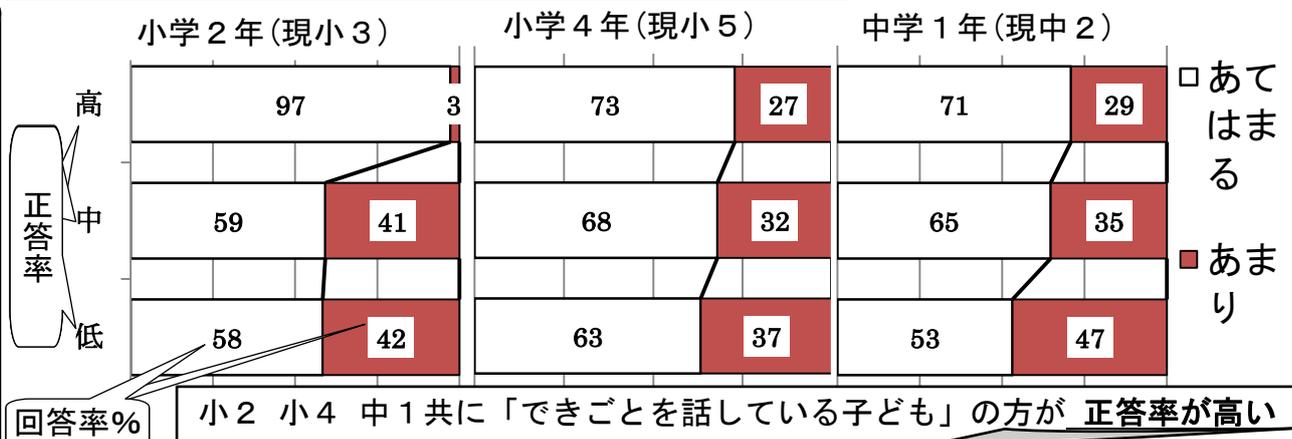
今回の調査（2012年3月実施）においても同様の傾向が現れていました。そんな中でも、「子どもが『自分だけのテレビをもっている』」という事も正答率に、大きな影響があることがわかりました。

「自分だけのテレビをもっているか」の結果より



では、「自分だけのテレビをもっている」ことが、問題なののでしょうか？ 色々な要因が考えられますが、今までのアンケートからわかってきたことを含めて考えていくと「個人用テレビが、家族のつながる時間をうばっている」ことが、問題なのではないのでしょうか？ 一方で、同じアンケート時に 以下のような結果も出ています。

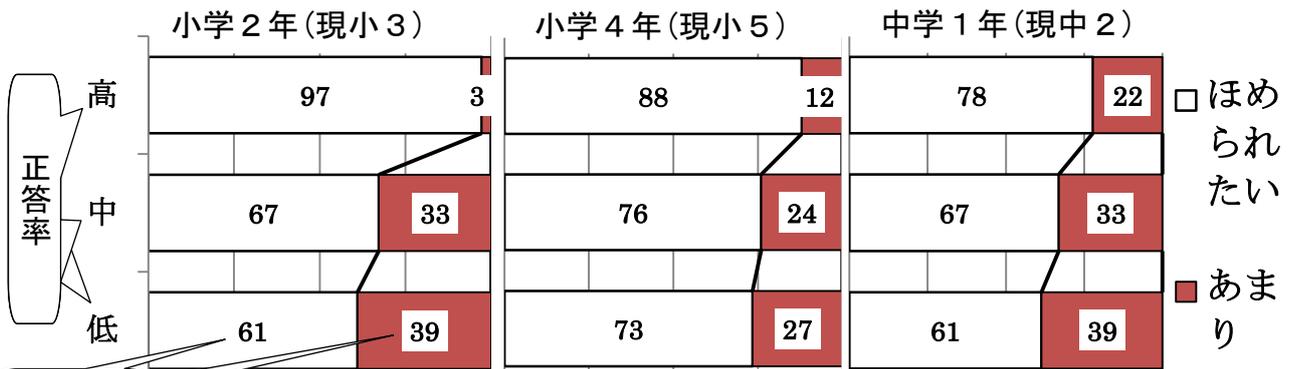
「学校のできごとを家の人と話をしますか」の結果より



家庭内での会話の重要性が、よくわかりますね。

では、どんな会話が正答率と関係してくるかをアンケート結果からみると

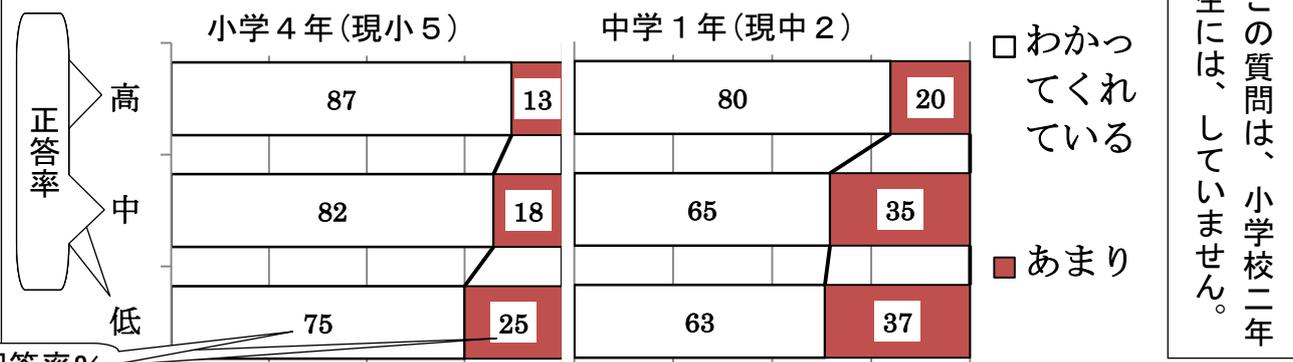
「あなたは、家の人にほめられたいとおもいますか」の結果より



回答率% 小2小4中1共に「ほめられたいと思っている子ども」の方が正答率が高い

学年に関係なく「ほめられたい」と思っているほど学習への意欲が高まり、今まで学習した内容の定着度が高いことがわかります。「ほめられたい」との気持ちは、何をあらわしているのかが、わかるアンケート結果も出ています。

「家の人 あなたの気持ちをわかってくれていますか」の結果より



この質問は、小学校二年生には、していません。

回答率% 小4中1共に「わかってくれていると思っている子ども」の方が正答率が高い

この質問では、学年が高い方が、より大きな差としてあらわれています。4つのアンケート結果を総合して考えていくと以下のように考えることができます。



今日から「ほめる」をキーワードにして家族で会話をしてみませんか？

「勉強なんてどうでもええねん」と言っている子どもであっても、内心では「勉強がわかるようになりたい」「良い成績をとりたい」など、

**子どもは、いわゆる「学力に対する向上心」を秘めています。**

## 部落解放教育部会

部落解放教育部会では、「部落問題学習の実践をすすめる研究を行う」「教材開発につながる素材の体験やフィールドワーク、聞き取りなどを通して研究を行う」を活動目標に、同和・人権問題を多様な視点から追究してきました。

7月には、梶川孝子さんを講師に迎え、『部落の食文化』について学びました。実際に牛のホルモンを調理し、おいしくいただきました。「牛は鳴き声以外捨てる場所がない」といわれ、牛のすべてを無駄にすることのないように、食肉に携わる方々の素晴らしい仕事があることを知りました。また、私たちが生きていくためには、他の命をいただかないといけないことについて考えることができました。

9月には、『人権・太鼓ロード』のフィールドワークにでかけました。講師の太田恭治さんからは、太鼓や皮革産業とともに発展してきた町のようにについて学びました。逆に、現在は町からどんどん人が離れていき、住みにくくなってしまっていることや、人権を大切にしてきた施設が町から次々無くなっていくことへの危惧が語られました。



11月には、広川九満さんを迎え、『皮革ワーク(ペンケースづくり)』を行いました。裁断された革に、穴を開けたり縫い合わせたり、慣れない手作業でしたが、何度も説明を聞きながら、無事完成しました。自分の作った作品を手に、みんなニッコリ。部会員からは、「子どもたちとも取り組んでいきたい」との声があがりました。

10月、1月は、結婚差別について考えました。友永香鶴子さんや川口昌子さんから結婚差別の実情、今もなお結婚差別があることなどを聞きました。まだまだ身近にある差別を知り、差別をなくすためにどのような取り組みをしていかなくてはいけないのか考えました。模擬授業なども実施し、取り組みを学校に返すことも考えました。

## 在日朝鮮人教育部会

在日朝鮮人教育部会では、「各校の取り組みについて交流し、実践につながる研修を進める」「渡日・在日の子ども・保護者の抱える問題や歴史的背景、法的地位など日本社会の抱える問題について学習を深める」「民族講師などと連携し、交流会や音楽会などの地域の活動とともに取り組む」を活動目標に、研修を深めてきました。

- ◆ 民族衣装・民族楽器についての学習会・・・金景姫・朴泰義ソンセンニムを講師に招き、チョゴリの着方やチャンゴの演奏について実技を中心に学習を深めました。南大阪民族交流会の日が近く、学校ですぐに活用できて、とても好評の学習会でした。
- ◆ 朝鮮学校の現状を学ぶ学習会・・・南大阪朝鮮初級学校の孫大元校長を招き、「民族教育の現状と課題」というテーマで学習会をしました。朝鮮学校の歴史

の話だけでなく、そこで学ぶ子ども・支える大人の姿がよくわかりました。先生の熱い想いが伝わってきました。

◆ 民族料理会・・・キムパブ(のり巻)、サンチュコッチョリ(チョレギサラダ)、ミヨックク(わかめスープ)を作りました。たくさん作り、他の専門部会の人にも食べてもらいました。楽しくてためになり、この料理会で学んだことを生かして、子どもといっしょに作っていきたいです。

◆ 教材実践の交流・・・コリアタウンフィールドワークの実践について交流できたのがよかったです。交流の中で、道徳と人権教育についての話にもおよび、各校取り扱い方の違いを聞いてとても参考になりました。道徳の時間に人権学習を組み合わせた計画を立てていこうという話をしました。

各回や最終のまとめで出た意見を大切に、来年度の活動につなげていきたいです。

## 第20回住吉・住之江じんけんのつどい 教育第3分科会

### 「日本語ってむづかしいんだよ」 井上 康雄さん(大阪市立市岡中学校)

さまざまな事情で日本へ渡ってくる子どもたちは年々増えています。そんな子どもたちとの「日本語教室」での交流を中心に、子どもたちの置かれた厳しい現状や具体的な支援の在り方など話していただきました。



親の不安定な就労状況、それに伴う生活不安、慣れない異国の地での生活、何より大きな言葉の壁。国際社会や経済の混迷は、そのまま子どもたちを日々苦しめています。

教員になり、初めてであった中国から渡日してきた1人の子どもとの関わりから、井上さんは取り組みを始められました。最初は、何もわからないまま、「苦しむ目の前の子どもを、ともかく何とかしたい」という思いで格闘してこられたそうです。周囲の理解も取り組む仲間も少ない中、たどられた道は苦労の連続でした。先駆者でなければわかりえない体験の数々を、豊富な資料をもとにわかりやすい映像、巧みな話術で話されました。そして、改めて日本語の難しさと渡日した子どもたちを取り囲む現状の厳しさを実感しました。

祖国を離れ、異国の日本で暮らさなければならなくなった子どもたち。「その不安を取り除くためにできる精一杯の取り組みは『笑顔』と『拍手』で目いっぱい歓迎の気持ちを伝えること」が大切なのだと教えていただきました。退職を目前に控え、「後に続く人たちへ託す遺言のような思いで話をします」と熱い想いを語られました。

※第1・2分科会は285号へ掲載。第3分科会は、紙面の都合上、286号へ掲載。

# 学校の窓 (真住中学校)

～民族学級開級 10周年を終えて、次の20周年へ

希望あふれる閉級式～

2月25日(月)、卒業式を間近にひかえ、真住中学校民族学級の修了式である閉級式が行われました。たくさんの教職員が参加する中、校長先生が修了証を読みあげました。

参加した1年生・2年生は、1年を振り返りながら、民族学級で感じたこと、来年度の抱負などを話しました。教職員も励ましの言葉を贈り、温かい雰囲気の中で閉級式が行われました。

真住中学校は、昨年度で民族学級開級10周年の節目を迎え、今年はさらに活気あふれるものにしようと頑張ってきました。4月より、とても元気な新入生と、楽しいソニンム(民族学級の先生)を迎えて、毎週月曜日の放課後、みんなで韓国・朝鮮の文化や言葉(ハングル)を勉強してきました。

南大阪民族交流会や子ども民族音楽会といった大きな行事にみんなで参加するだけでなく、生野区にあるコリアタウンのフィールドワークに出かけたり、PTAで行われた多文化共生料理会へ参加したり、文化祭で展示発表を行うなど、新しい活動に挑戦して取り組んできました。「来年は、絶対、文化祭での舞台発表をやろうね!」と、早くも来年への抱負を話しあい、もり上がりました。



最後に、1年間一緒にいろいろと勉強を教えてください、励ましてくれた朴泰義(パクテウイ)ソニンムが、自分の体験を交えながら「韓国・朝鮮にルーツのある人が、日本で生活していく中で、心ない差別を受けたり、悲しい思いをしたりする現実、今でもないとはいえない。でも、そこで自分は関係ないと切るのではなく、民族学級で学ぶ中で、自分を見つめ直し、自分のルーツや人とのつながりを発見していくことは、素晴らしい宝物になる。そう分かる時がきっと来るよ。」と語りかけてくれたのがとても印象に残りました。

真住中学校民族学級にとって、次の節目の20周年へ向かって希望あふれるスタートになる閉級式となりました。来年はもっとたくさんの仲間にも参加してもらい、さらに活気あふれる民族学級にしていこうと思っています。

# 学校の窓 (住吉川小学校)

## 沖縄の歴史や文化を学んで

住吉川小学校では、年間計画を立てて各学年で様々な人権教育を行っています。その中で、2学期に実施した5年生の取り組みを紹介します。

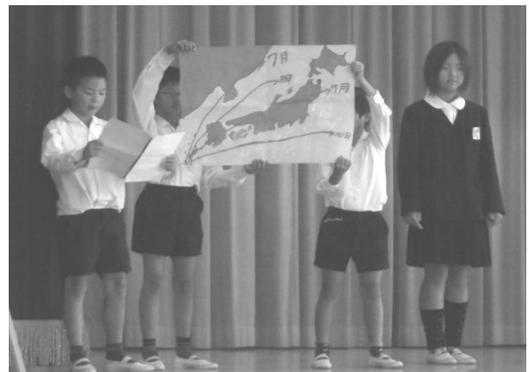
本校の平和学習は、低学年から物語を通して戦争についてふれていき、6年生で歴史学習から大阪大空襲や広島・長崎の原爆投下について、詳しく学習するという形態をとっています。それゆえ、5年生では「平和」について考えていく一つのきっかけとして、社会科の学習でも触れた沖縄をテーマに学習を進めていきました。

## 学習参観での発表会

今回の学習のまとめとして、学年全体や保護者に向けて調べたことや考えたことを発表しました。沖縄の特色ある文化や戦争について堂々と発表することができ、一生懸命準備した成果が出ていました。

発表会の最後には、「平和の詩」という沖縄の小学生が書いた詩を全員で朗読しました。自分たちが伝えたい思いを代弁しているような内容で、気持ちを込めて朗読することができました。

入口付近に紙を用意して、参観に来られた保護者の方々に感想を書いてもらったところ、「知らない事を子どもたちから沢山教えてもらいました。」「平和の詩、本当にその通りです。ずっと心の中に残ってほしいと思います。」などの感想をいただきました。



## 「魂」を込めたエイサー



沖縄の文化を学ぶ一環として、沖縄の伝統舞踊「エイサー」を運動会で踊りました。練習を初めたころは独特のリズムと動きに戸惑い、恥ずかしさもあってか動きも小さく、楽しいと感じている子は少なかったと思います。

しかし、このエイサーには、沖縄の人たちのこんな思いが込められているんだということを知ってから、子どもたちの動きは激変しました。腕を大きく回し、足を思い切りあげ、

「イヤサーサー！」と大声を出しながら踊るようになりました。

運動会の演技の後、一人の子どもが「魂を踊りに込めるって意味がわかった気がする。」と目を輝かせながら言っていました。

# すみほ★ せん太郎くん

またみえこ —128—

## 兄妹の心配



# 2013年度 同推協活動予定

活動内容	日程（予定）
全体研修会（総会）	6/19（水）
役員研修会 *年3回	5/21（火） 10/2（水） 2/22（土）
新転任研修会 *年2回	5/29（水） 9/4（水）
第21回住吉・住之江 じんけんのつどい *教育分科会のコーディネート	11/9（土）
人権全体公演会	2/26（水）
専門部会 *年8回／基本第2火曜日	5/14、6/11、 7/9、9/10、 10/8、11/12、 1/14、2/18
公開授業研究会 *真住中学校	11月ごろ
機関誌「すいしん」発行 *年4回	7月、10月 12月、3月



新転任研修会パートI



公開授業研究会（敷津浦小）

今年度も、みなさまのご協力により、同推協活動を進めていくことができました。来年度も変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。（事務局）